

小出ロール鉄工所

30トン級加工に参入

CNC旋盤 導 入 発電機・鉄鋼向け

【千葉】小出ロール鉄工所(千葉県習志野市、小出明治社長、047・475・3811)は、発電機用シャフトや鉄鋼用ロールなど重量30トンクラスの大型部品加工事業に参入する。習志野工場内に大型精密加工用の旋盤を増設する。投資額は約3億円で2010年4月の稼働予定。中型の10トン程度の旋盤加工は行っているが、顧客の内製化が進み受注は減少している。大型部品は加工に特殊技術を要するため、不況下でも下振れリスクが低く受注を見込めると判断した。設備を増強し受注増に備える。

習志野工場に新たに導入するのは直径2.5メートル、長さ10メートル、重さ30トンの大型加工対象物(ワーク)に対応可能なCNC(コンピュータ数値制御)旋盤加工機。原子力や船舶、風力など各発電機用のタービンシャフトや鉄鋼・製紙用ロールなどの大型部品加工を行う。また耐荷重20トンのクレーンを2機設置する。稼働後の2011年2月期には

約4000万円の売上高の上乗せを予想する。小出ロール鉄工所には、今回設置するCNC

旋盤で加工できるワークの大きさに対応した大型研削機がすでにある。旋盤から研削加工まで一貫して行うことでコストを抑えた受注ができる。大型ワークの一貫生産ニーズは高く「以前から大型の加工依頼は多くあった」(小出社長)。また、既に中型の10トン程度の旋盤加工は行っているが「コスト削減の要請から内製化が進み、10トンクラスの外注比率は年々低下している」(同)とい

う。大型ワークに対応した体制を整えることで、収益性を高め安定経営を維持する。小出ロールは、製鉄用鉄鋼ロールや製紙用ロー

ル、重電機用シャフトなどの特殊な研削加工を主力とする。09年2月期の売上高は、前年度比5%増の20億円を見込む。